

たいにい・ぼっくすつうしん

Vol.117

令和6年
12月13日

「生活」と「仕事」の二刀流をリスペクト

今年の流行語大賞が決まるなど、1年を振り返るニュースが飛び交っています。特別に野球が好きというわけではありませんが、流行語にノミネートされました、ドジャースの大谷翔平選手が1シーズンで50本塁打と50盗塁（50-50）を達成した新記録には驚きました。今年は打撃に専念していたものの、来年はピッチャーとしての登板があるのか、さらに期待が膨らみます。

福祉の役割は非常に幅広いですが、そのひとつは、家庭や個人だけでは解決が難しい問題に支援を提供することで、社会全体の安定と調和を促進することです。家庭内で解決できない問題が存在する時、他者の力を借りることに躊躇する必要はありません。福祉の使命は、誰もが安心して「生活」できる基盤を築くことにあります。そんな福祉の仕事は、使命感や自己有用感、やりがい、熱意だけで続けることはできません。他者の「生活」を支援するには、自分自身の「生活」に余裕が必要です。余裕がなければ、モチベーションが低下し、他者に寄り添う共感が減少します。支援は義務へと変わり、表面的なものになるのです。

「生活」と「仕事」の比重、いわゆるワークライフバランスは人それぞれ異なりますが、そのバランスが保たなくなり崩れることは避けなければなりません。特に、育児や介護のために離職を余儀なくされるケースが多く、女性に負担が集中している現状は、社会の大きな課題です。こうした状況を改善するために、職場では柔軟な働き方を推進することが重要です。ケガや病気はもちろん、子育てや介護、他者には言いづらい理由で休みが必要な場合でも、安心して休める環境を整えることが求められています。自分自身の「生活」を大切にし、そのうえで、「仕事」を通じて社会の一員としての役割を実感することが喜びへと繋がります。また、こうして習得した知識や技術、経験は、巡り巡って自分自身や大切な人を支える力になるでしょう。

大谷選手のように「生活」と「仕事」の二刀流を両立させ、長期的にワークライフバランスを保つことは安易ではありません。投手ができないシーズンもあるのです。それでも、「仕事」という選択は、自分自身、家族、そして社会全体との調和を意識し、限られた時間を有効に活用する素晴らしい生き方を実践しています。その姿勢は、単に仕事をこなすことにとどまらず、自分らしい人生を築く模範となり、周囲の人々に良い影響を与えます。その選択と努力に、心から敬意を表したいと思います。

たいにい
のようす

写真掲載欄のため、内容を削除しております。

茶話会（11月22日実施）の報告

11月22日（金）に茶話会を開催しました。事業所からは、今年度の安全計画についての案内、マニュアルの公開、また Google フォームや LINE 公式アカウントの活用方法についてお話ししました。保護者様からのご意見やご相談の中では、特にショートステイの利用に関する内容が多く、事業所での宿泊体験を希望する声もいただきました。次回の茶話会では、ショートステイに関する情報収集結果や宿泊体験の実施可否についてお伝えできればと考えています。

1月の予定

冬季長期休暇計画参照

1月 休業日

1日 2日 3日
4日 5日
11日 12日
13日
18日 19日
25日 26日

